

本科 1 期 7 月度

解答

Z会東大進学教室

高2東大世界史



11章 イスラーム世界の形成

問題

【1】

解答

- A イ b 口 c ハ f ニ e ホ a
B あ 正統カリフ い エジプト う ニハーヴァンド え ベルベル
C
(1) c (2) ジズヤ・ハラージュ (3) c (4) 西ゴート王国 (5) カール=マルテル
(6) i -マワーリー
ii -イスラーム教へ改宗してもアラブ人でないため免税されず、信者間に不平等が存在したこと。
(7) b・c (8) レコンキスタ (国土回復運動) (9) イブン=ルシド (10) c

解説

A. イ・口. 正統カリフの4名（アブー=バクル→ウマル→ウスマーン→アリー）は順に名前を覚えておくこと。

ハ. イスラーム勢力がウマルの時代にビザンツ（東ローマ）帝国からシリアを奪った。ムーア・ウマイヤはもとはシリア総督であった人物。

ニ. ハールーン=アッラシードはフランク王国のカール大帝との間で使者の交換を行ったとされる。つまりこの両者は同時代人であり、世界史のヨコ（同時代）のつながりを理解するのに役立つ知識なので知っておきたい。

ホ. 756年に成立した後ウマイヤ朝は、アブド=アッラフマーン3世時代に全盛を迎える。彼は929年にカリフを称してアッバース朝カリフとの対立を鮮明にした。

B. あ. 正統カリフの名称については、A・イ・口の解説文を参照。正統カリフ時代にはカリフは選挙で選ばれたが、ウマイヤ朝以降は世襲されることになった。

い. ウマルの時代にシリアとエジプトはイスラーム支配下に入った。

う. ニハーヴァンドの戦いでササン朝ペルシアのヤズデギルド3世は敗北し、9年後の651年にササン朝は滅亡した。

え. ベルベル人はエジプト語系を中心に、ネグロ・セム系が混血して形成された民族。11世紀に急速にイスラーム化したことは知っておくこと。

C. (1). イスラームとは「神への絶対服従」を意味する。またアッラーとは「神」を意味する抽象名詞であり、固有名詞ではない。

(2). ジズヤは人頭税を、ハラージュは地租をさす。

(3). シーア派は少数派であるため、この派を国教としたイスラーム国家は少ない。受験ではファーティマ朝・ブワイフ朝・サファヴィー朝がシーア派の代表であると記憶しておくこと。

(4). 西ゴート王国は5世紀初めに南フランスに建国され、その後6世紀初めにイベリア半島

に重心を移し、トレドを首都とした。これを711年に滅ぼしたウマイヤ朝カリフがワリード1世である。私大も受験する予定の者は暗記しておいてほしい。

(5). この戦いで活躍したカール=マルテルはメロヴィング朝フランク王国の宮宰である。息子のピピンはクーデタでメロヴィング朝を倒し、カロリング朝フランク王国の初代国王となつた。

(6). マワーリーに対して、ジズヤとハラージュの支払いを行い、財産・生命と従来の信仰を保証された非イスラーム教徒をジンミーと呼ぶ。マワーリーの抱いたイスラーム信者間の不平等を解消したのはアッバース朝で、イスラーム教徒であれば民族を問わずジズヤは廃止され、信者間の平等が達成された。

(7). イクター制は地方政権の自立が進み税収が減少したことを受け、アター（現金俸給）に代えてイクター（分与地）を与え、その地でアター相当額の徵税権を軍人に認めた制度。よってbは誤り。また、イクター制は国内での分権化を促進したので、cも誤り。

(8)・(10). 8世紀から始まるレコンキスタは11・12世紀に本格化し、その主体となったイベリア半島のカスティリヤ王国とアラゴン王国は連合し1479年にスペイン王国となった。1492年には半島最後のイスラーム王朝であったナスル朝の都グラナダが陥落し、レコンキスタは完成した。

(9). イブン=ルシュドによるアリストテレスの注釈書は、西欧中世のスコラ哲学の完成にも大きく影響した。彼のラテン名はアヴェロエス。

【2】

解答

設問1 1 A 2 C 3 U 4 E 5 M 6 L 7 H 8 R
9 L 10 Q 11 I 12 P 13 B 14・15 N・S (順不同)
16 D

設問2 (A) ナスル朝 (B) イブン=ルシュド (C) スワヒリ語

解説

1～4. エジプト地域のイスラーム王朝はファーティマ朝→アイユーブ朝→マムルーク朝と変遷する。ファーティマ朝のみシア派王朝。都はすべてカイロに置かれた。ファーティマ朝時代にカイロに設立されたアズハル学院は、アイユーブ朝以降スンナ派研究の中心として繁栄し、今日でもイスラーム圏の最高権威を有する大学である。

5～8. ベルベル人は11世紀に急速にイスラーム化し、モロッコのマラケシュを都にムラービト朝を建国した。続くムワッヒド朝もベルベル人国家で、ともに北アフリカからイベリア半島南部にまで領土を有した。

9～13. 西アフリカのニジェール川流域では黒人国家のガーナ王国→マリ王国→ソンガイ王国が順に成立した。ガーナ王国は産出する金とイスラーム商人のもたらす岩塩をサハラ縦断交易で取引して繁栄した。しかし、北方からのムラービト朝の南下は、西サハラの黒人のイスラーム化を促進することもなった。マリ王国の国王マンサ=ムーサが1324年のメッカ巡礼の際に莫大な金を奉納し、同国の名は西アジア・ヨーロッパ世界に広く知られるようになった。

ソンガイ王国の都はガオに置かれるが、商業・文化の中心都市としてトンブクトゥが栄えた。この都市には前述のマンサ＝ムーサが大モスクを建立し、大学も建設された。

14～16. 東アフリカの港市都市としては解答のモンバサやキルワの他にモザンビーク、マリンディ、モガディシュなどがある。アフリカ東南部はインド洋を用いた交易で繁栄し、この地の共通語となったのがスワヒリ語だった（スワヒリとは「海岸に住む人々」の意味）。ジンバブエ地域のモノモタバ王国は鉱物資源（とくに金）とインド洋交易で繁栄し、首都ジンバブエにはこの国家の文化を示す石造建築群が残された。

(A). ナスル朝（グラナダ王国）では、都のグラナダにスペイン＝イスラーム文化を代表するアルハンブラ宮殿が建設された。1492年にスペインがグラナダを占領し、イベリア半島のイスラーム王朝は消滅した。

(B). 【1】の設問C-(9)の解説文を参照。

(C). 設問1～14～16の解説文を参照。

MEMO

12章 イスラーム世界の展開

問題

【1】

解答

A

イ ムガル 口 アグラ ハ イスラーム ニ ジズヤ ホ ヒンドゥー
ヘ ラージプート ト シャー=ジャハーン チ アウラングゼーブ リ デカン
ヌ マラーター ル ナーナク ヲ シク

B

[あ] a [い] d [う] b [え] c [お] b [か] c [き] d
[く] d [け] d

解説

A. イ. ムガルとは「モンゴル」を語源とする語で、ムガル帝国初代のバーブルはチンギス=ハンの子孫を自称した。

口. アグラはデリーの南方に位置する。

ハ~ホ・チ. イスラーム教の支配下ではジズヤ（人頭税）の納入を行えば、イスラーム教は強制されないのが一般であった。アクバルはイスラーム教への純粋なこだわりを持たずジズヤの廃止を行い、非イスラーム教徒との融和をめざした。これに対してアウラングゼーブは敬虔なイスラーム教徒でジズヤの復活を行った。

ヘ. ラージプート族はインド西部に定着した諸族の子孫でヒンドゥー教徒。

ト. シャー=ジャハーンはアグラにタージ=マハルを建設した。

リ. アクバルは北インドからアフガニスタン地域を制圧し、アウラングゼーブは南インド地方（デカン高原）を制圧した。

ヌ. マラーター同盟はマラーター族の有力諸族の連合体でムガル帝国に抵抗し、続いてイギリスの侵略とも戦うが、19世紀初めにイギリスに敗北した。

ル・ヲ. シク教はイスラーム教の影響を受けたヒンドゥー教の改革派で、ナーナクが創始した。偶像崇拜を禁じ、カースト制を否定する点にイスラームの影響が見られる。

B. [あ] ムガル帝国の成立は1526年、滅亡は1858年である。

[い]・[お]. A-リの解説文を参照。

[う]. ムガル帝国皇帝は初代バーブル・3代アクバル・5代シャー=ジャハーン・6代アウラングゼーブの業績を区別して暗記するとよい。

[え]・[か]・[き]. アクバル（位1556～1605）とアウラングゼーブ（位1658～1707）の時代は約100年の差があると記憶しておくと便利である。

[く]. ムガル帝国の都はアクバルの時代にアグラに遷されたこともあったが、基本的にはデリーに置かれた。

[け]. マイソール王国は南インドのマイソール地方に建てられたヒンドゥー王国で、17世紀初頭、ヴィジャヤナガル王国が衰退する中で建国・発展した。

【2】

解答

- 1 ① g ② k ③ l ④ d ⑤ e ⑥ p ⑦ r ⑧ o
⑨ i ⑩ a
- 2 (イ) a (ロ) e (ハ) d (ニ) c (ホ) h (ヘ) b
- 3 (1) d (2) c (3) e (4) a (5) b
- 4 d 5 b 6 c 7 a

解説

2-(イ). 395年にテオドシウス帝の死でローマ帝国は東西に二分された。

1-①. セルジューク朝の小アジア拡大がこの地のイスラーム化の契機となった。

1-②・③・2-ロ. 1370年に建国されたティムール朝は、1402年に小アジアのアンカラでオスマン帝国に勝利した。この後に一時オスマン帝国は混乱するが、15世紀中頃のメフメト2世が帝国を再興し、彼は1453年にコンスタンティノープルを攻略しビザンツ（東ローマ）帝国を滅ぼした。

2-ハ). アダム＝スミスが『国富論』を刊行したのは1776年で、アメリカ独立宣言が発せられたのと同年であることは記憶しておくと便利。

2-(ニ). バルトロメウ＝ディアスは1488年にアフリカ南端の喜望峰に到達し、その10年後の1498年にヴァスコ＝ダ＝ガマがインド西岸のカリカットに到達することで、アフリカ回りのインド航路が開拓された。

1-④・⑤・2-ホ. セリム1世はイランのシア派イスラーム王朝のサファヴィー朝と争い、またエジプトのマムルーク朝を1517年に滅ぼした。1517年はルターが宗教改革を開始した年でもある。

1-⑥・⑦. マムルーク朝を滅ぼしたオスマン帝国は、マムルーク朝の保護下にいたアッバース朝のカリフの子孫からカリフの位を継承し、オスマン皇帝（スルタン）がスンナ派イスラーム世界の政治・宗教の両権を握ることになった。

1-⑧～⑩・2-ヘ. スレイマン1世はモハーチの戦い（1526）でハンガリーを獲得し、1529年にはハプスブルク家が皇帝を務める神聖ローマ帝国の都ウィーンを包囲した。時の神聖ローマ皇帝カール5世はフランス王フランソワ1世と対立していたこともあり、スレイマン1世はフランソワ1世と同盟した。

3. いずれの地名も基本事項である。地図上のヴェネツィア、コンスタンティノープル、カイロも頻出なので押さえておきたい。

4. オスマントルコ帝国はスンナ派、サファヴィー朝はシア派である。受験ではシア派王朝としてファーティマ朝・ブワイフ朝・サファヴィー朝の3王朝を記憶しておくこと。

5. 中国から輸入したものは絹である。西欧中世の主要産業である毛織物業の中心としてフランドル地方があるが、この地での毛織物の原料である羊毛はイギリスから輸入された。

6. 第3回十字軍はエジプトのアイユーブ朝がイエルサレム王国を占領したことに対して実施された。

7. ブラジルに漂着したのはカブラル。マゼランは南アメリカ南端から太平洋を北上しフィリピンで死亡した。部下が世界周航に成功した。

13章 明・清

問題

【1】

解答

- 問1 a 朱元璋 b 中書 c 里甲 d 六諭 e 内閣（内閣大学士）
f 蘇湖（江浙） g 湖廣 h 一条鞭法 i 張居正
問2 クリルタイ 問3 (イ) 問4 (ハ) 問5 交鈔
問6 (1) 『農政全書』 (2) マテオ＝リッチ

解説

- 問1. a. 朱元璋は貧農出身で、紅巾の乱の中から頭角を現し皇帝になった人物である。彼に加え、中国史上で農民出身で皇帝になった人物として前漢を建国した劉邦を記憶しておこう。
- b. 唐で中央官庁として中書省・門下省・尚書省が置かれた。宋では中書・尚書の2省となり、元では中央に中書省のみが残された。
- c. 110戸で1里とし、内10戸を里長戸とした。残り100戸を10戸ずつ10甲に分けて各甲に甲首戸を置いた。
- d. 儒教道徳のエッセンスを6カ条にまとめて、毎月6回ずつ里老人が里甲内を唱えてまわることで民衆の教化をめざしたもの。
- e. 皇帝補佐機関として設置されたが、明代後半ではその権力を強めていった。
- f・g. 「蘇湖（江浙）熟すれば天下足る」とは宋代に長江下流域が穀倉地帯となったことを示す。蘇は蘇州を、湖は湖州を、江は江蘇省を、浙は浙江省をそれぞれ表す。「湖廣熟すれば天下足る」とは明・清代の穀倉地帯が長江中流域であったことを示す。湖廣とは湖北・湖南省のこと。
- h. スペイン人のもたらすメキシコ銀と、ポルトガル人のもたらす日本銀の大量流入を背景として、土地税と人頭税を一括して銀納する一条鞭法が施行された。これにより唐から続いた兩税法が廃止された。
- i. 張居正は韃靼（タタール）のアルタン＝ハンとの和平を築き、農耕地の測量を進めて財政の充実につとめた。

問2. 「会議」を意味するクリルタイではハンの選出や戦争などの重要事項が部族長や有力者により決定された。

問3. 朱子学を大成した朱熹は理氣二元論の立場に立って、性即理説を唱えた。解答に際しては、(イ)が墨家の、(ハ)が陽明学の、(ニ)が道家の主張の根本を示す言葉であることから、消去法で(イ)を選んでもよい。

問4. 明・清代に活躍した遠距離商人の代表が山西商人と新安商人であるが、前者は山西省出身の商人集団であり、後者は安徽省出身の商人集団である。

問5. モンゴル帝国では当初は銅錢や銀などが貨幣として用いられたが、経済の活発化に伴つ

て、金にならって交鈔と呼ばれる紙幣が発行された。のちに乱発によってインフレを招き、元朝衰退の一因となった。

問6. 徐光啓は洗礼を受けてキリスト教徒となり、マテオ＝リッチと協力してエウクレイデスの幾何学を『幾何原本』として漢訳した。徐光啓は古くからの農学を総合した『農政全書』を著し、またアダム＝シャールと協力して西洋天文学の暦法書である『崇禎暦書』も刊行した。

【2】

解答

1 て 2 そ 3 ふ 4 さ 5 ほ 6 は 7 し 8 ち 9 あ
10 こ

解説

1. 吳三桂は明滅亡時に清に投降した武将で、清が中国東北部から北京に侵入するのを助けた。この後に雲南の藩王とされたが、康熙帝の領土削減に反対し三藩の乱を起こした。乱の共謀者である他の2人、広東の尚可喜、福建の耿繼茂も併せて確認しておこう。

2. 台湾を拠点に反清復明運動を展開したのが鄭氏一族である。鄭成功は1661年に台湾からオランダ人を駆逐し、反清運動の拠点とした。

3. ネルチンスク条約(1689)ではアルゲン川と外興安嶺(スタノヴォイ山脈)が清とロシアの国境とされた。この条約を締結した清皇帝が康熙帝・ロシア皇帝がピョートル1世であることも必須知識である。

4. ジュンガル部は17世紀後半のガルダン＝ハンの時に強勢となるが、康熙帝の攻撃にガルダン＝ハンは敗れた。最終的には乾隆帝時代に討伐された。

5. 清は主要官職で満州人と漢人を同数採用する満漢併用制を実施し、科挙も積極的に実施した。元王朝が科挙を廃止し、モンゴル人第一主義で漢民族を冷遇したのとは対照的であった点を理解しておこう。

6. 選択肢ぬ(『康熙字典』)・は(『四庫全書』)・へ(『古今図書集成』)で迷ったであろう。解答のヒントは空欄前の「一大叢書」という言葉である。『康熙字典』は字典、『古今図書集成』は類書(百科辞典)、『四庫全書』は叢書である。

7. 明から的一条鞭法に代えて、清では地丁銀制が導入された。定額の人頭税を土地税に繰り入れて土地のみを課税対象としたことで、小作農民である佃戸からは人頭税の支払い義務が消滅した。

8. 番髪にすることを拒絶した者は処刑された。このため、「頭をとどめんと欲するものは髪をとどめず、髪をとどめんと欲するものは頭をとどめず」といわれた。

9. 番髪と並ぶ清の漢人への威圧策が、文字の獄や禁書令である。康熙・雍正・乾隆時代には反清的な者を積極的に処刑した(文字の獄)。

10. 雍正帝がジュンガル部討伐のための軍事機関として設置し、後に清の軍事・政治の最高機関となったのが軍機處で、1911年まで存続した。

W2J
高2東大世界史



会員番号	
------	--

氏名	
----	--